

第6学年2組 国語科学習指導案

平成26年9月11日(木) 第5校時
場 所 6年2組 教室
授業者 教諭 丸野 貴彦
在籍児童数 男子15名 女子24名 計39名

- 1 単元名 作品の世界を深く味わおう
教材名 「やまなし」 「イーハトーヴの夢」

2 本単元の意図

(1) 児童の実態

本学級の児童は、落ち着いて授業に臨み、課題に対してもしっかりと取り組むことができる。読書好きの児童も多く、朝の読書時間に限らず、時間を見つけては読書しようとしている。そのため、文章を読むことに対して苦手意識をもっている児童は少ないように感じる。しかし、ファンタジーやシリーズ物の作品を読んでいる児童が多く、宮沢賢治や夏目漱石などの作品はあまり読まれていない。また、ストーリーを重視して読んでいるため、じっくり表現を味わうような読み方や、作者の人物像を知った上で物語を読むようなことはしていないように思う。

そこで、本単元では、宮沢賢治の生き方や考え方を知った上で「やまなし」を読み、場面の描写や叙述が宮沢賢治の生き方や考え方とどのように重なっているかを考えることで、より深く作品を味わう楽しさを感じられるようにしたい。そして、読書をする楽しさをさらに広げられるようにするとともに、自分の考えと友達の考えを交流する楽しさも味わえるようにしたい。

(2) 育成する言語能力

本単元で育てたい能力は、「C読むこと」の「イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」である。そこで、『やまなし』『イーハトーヴの夢』を教材として読み、宮沢賢治の生き方に触れ、その作品を読み広げるとともに、「6年生に宮沢賢治の作品を紹介する『推薦カード』を作る」という言語活動を設定する。

「イーハトーヴの夢」で作者の生き方や考え方に触れ、そこから「やまなし」を学習していくことで、作者の生き方・考え方と「やまなし」の作品世界とを重ねながら読み取っていく。そして、物語には作者の生き方や考え方が反映されていることを知った上で、「推薦カード」を作成する。これにより、本をよく読み込み、作品の世界を深く味わいながら自分なりの考えをもつ読む力と物語のおもしろさがよく伝わるようにカードを作成する表現力を身につけさせたい。

(3) 教材観

本単元は、宮沢賢治の「やまなし」と補助資料として賢治の生き方や作品が生まれた背景、考え方を構築する上で直面した出来事が綴られた伝記（評伝）「イーハトーヴの夢」から成り立っている。そして、作者の考え方や生き方と重ねて作品を読み、「作品の世界を深く味わう」ことをねらいとしている。

「やまなし」には、2枚の幻灯の世界が「生と死」「光と影」「奪うものと与えるもの」のように対比されながら描かれている。そしてそこには、宮沢賢治独特の擬声語や擬態語、造語、比喩表現が駆使されている。そのため、児童にたくさんの疑問や不思議な感じをもたせ、自分なりの読みが味わえる作品である。「イーハトーヴの夢」は、宮沢賢治の信念と、その信念に従い目的をもって生き抜くという強い意志、そこから生み出された作品の数々を知ることができる。

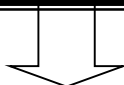
そこで、本単元を進めるに当たっては、まず「イーハトーヴの夢」を読み、作者の生い立ちや考え、生き方を知った上で「やまなし」を読み、作品の世界をより深く味わうことができるようにしたい。

3 単元の目標

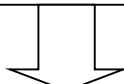
- (1) 物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の生き方や考え方を知ったりしようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。
(読むこと)
- (3) 目的に応じて、複数の本を比べて読むことができる。
(読むこと)
- (4) 作品の中で使われている表現を味わい、語感や言葉の使い方に関心をもつことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 研究内容との関連

『自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ太陽の子の育成』
～基礎・基本の定着を図り、表現力を高める国語指導の工夫・改善～



目指す児童像
話の中心や相手の意図を理解し、自分の考えをもち、豊かな表現で伝え合うことができる子



視点 1	基礎・基本の定着を図る指導の工夫
手立て①	単元を通して付けたい力の明確化
手立て③	単元の「どこで・どのように」児童に力が付いたのかを見取る評価計画

- ・付けたい力を学習指導要領「C 読むこと」イ・エ・オ・カとし、それに合わせた言語活動（6年生に向けて推薦カードを作成する）を設定する。
- ・指導案の中に評価計画をきちんと明記し、それに合わせて評価、指導の改善を行う。

視点2	児童一人ひとりが思いや考えをもつための指導方法の工夫
手立て⑤	意欲を高める魅力的なゴールと学習計画の設定
手立て⑥	モデル学習の効果的な活用

- ・児童とともに学習計画を立て、単元全体の見通しをもち、学習の流れを確認しながら学習を進める。
- ・学習のゴールのモデル（竜のはなし推薦カード）を提示し、毎時間そのモデルを意識して学習活動をする。

視点3	伝え合う力を付けるための指導方法の工夫
手立て⑨	目的意識、相手意識をもち、考えを伝え合う活動や機会の充実
手立て⑩	表現のための指導過程の工夫
手立て⑪	言語環境の整備（話し合いや書く活動の手引きの工夫）

- ・グループでの伝え合いや意見の交流をもとに全体でも伝え合い、お互いの考え方や感じ方の相違に気づき、その面白さを味わう。
- ・推薦カードにつながるよう、お気に入りの叙述とそれを選んだ理由を書く活動を取り入れ、それを最終的な推薦カードの記入の際に参考にできるようにする。
- ・話し合いの際に付箋を活用し、自分たちの考えをイメージ化しやすいようにする。

視点4	学校生活全体における言語環境の整備
手立て⑬	読書活動の推進

- ・単元の学習に合わせて並行読書を行いやすいように、環境を整える。

5 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての 知識・理解・技能
<p>『『やまなし』『イーハトーヴの夢』を読み、宮沢賢治の生き方に触れ、その作品を読み広げるとともに、6年生に宮沢作品を紹介する『推薦カード』を作るという言語活動』を通じた指導</p> <p>・学習指導要領との関連</p> <p>「C 読むこと」の言語活動例 エ 本を読んで推薦の文章を書くこと</p>		
<p>①物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとしている。</p> <p>②宮沢賢治の生き方に関心をもち、進んで作品を読もうとしている。</p>	<p>①場面の様子をとらえて、優れた叙述に気がついている。</p> <p>②2つの場面を比べて読むことで、作品の特徴や作者の思いをとらえている。</p> <p>③複数の本を読んで、作者のものの見方や考え方について考えている。</p> <p>④本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを深めている。</p>	<p>①物語を読んで、語感や言葉の使い方に対する感覚について関心をもっている。</p> <p>②比喩などの表現上の特色について意識している。</p>

6 指導と評価の計画（全8時間扱い）

次	時	主な学習活動	学習内容	学習活動に即した評価規準と評価方法
第一次	1	○本単元のねらいと活動について知る。		
	2	<p>作者の生き方や考え方と作品を重ねて読み、6年生に宮沢賢治の作品を紹介する「推薦カード」を作ろう。</p> <p>○「竜のはなし」「雨ニモ負ケズ」の読み聞かせを聞く。 ○学習計画を立てる。 ※並行読書を開始する。</p> <p>○宮沢賢治の生き方や考え方について感想を交流する。 ・「イーハトーヴの夢」を読む。 ・生き方や考え方について感想を書き、グループで交流する。</p>	<p>・宮沢賢治作品の情景描写の特徴 ・複数の本を読み比べること ・「推薦カード」の書き方</p> <p>・宮沢賢治の生涯 ・宮沢賢治の生き方・考え方 ・宮沢賢治の作品に出てくる表現、語感、言葉の使い方</p>	<p>宮沢賢治の作品や「イーハトーヴの夢」から、作者の生き方や考え方に興味をもち、進んで作品を読もうとしている。 ア - ②（観察） 物語を読んで、語感や言葉の使い方に対する感覚について興味をもっている。 オ - ①（発言）</p>
第二次	3	○「やまなし」の全文を音読し感想を交流する。	<p>・「やまなし」について自分の考えをまとめる ・「二枚」「青い」「幻灯」などから想像すること</p>	<p>物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとしている。 ア - ①（発言・ノート） 2つの場面を比べて読むことで、作品の特徴や作者の思いをとらえている。 エ - ②（ワークシート） 場面の様子をとらえて、優れた叙述に気がついている。 エ - ①（ワークシート） 比喻などの表現上の特色について意識している。 オ - ②（発言）</p>
	4 本時	○「五月」と「十二月」の谷川の様子について「かへの親子」「クラムボン」「かわせみ」「やまなし」など、登場するものを中心に読み取る。	<p>・谷川の情景の読み取り ・様子を表す言葉 ・2つの情景の比較 ・宮沢賢治らしさが表れている叙述</p>	
	5	○「五月」と「十二月」の谷川の様子について、「水の中の様子」を中心に読み取る。	<p>・感じたことや考えたことの発表</p>	
	6	○五月」と「十二月」の谷川の様子について、「色」を中心に読み取る		


第三次	7	○並行読書してきた本の中から、推薦したい作品について推薦カードを書く。	・複数の本から宮沢賢治のものの見方を読み取る ・感想交流	複数の本を読んで、作者のものの見方や考え方について考えている。 エ - ③ (ノート・カード) 本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを深めている。 エ - ④ (発言)
	8	○推薦カードを互いに読み、感想を交流する。		

7 本時の学習指導 (4 / 8 時)

(1) 本時の目標

- 「五月」と「十二月」の谷川の様子について、様子を表す言葉や比喩表現に着目しながら、谷川の情景を想像することができる。 (読むこと)

(2) 展開の実際

学習活動	学習内容	指導・支援 (○) と評価 (◇) の創意工夫	時間
1 本時の学習課題を確認する。		○本時は全文を読み、そこから場面の様子についてまとめていくことを確認する。	3
「五月」と「十二月」の幻灯の様子について、登場するものを中心に読み取ろう。			
2 「五月」と「十二月」について、登場するもの (かへの親子、クラムボン、かわせみ、やまなしなど) に着目しながら全文を読み、それぞれの場面の情景を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・かへの兄弟の会話表現 ・クラムボンの描写 ・かわせみの描写 ・かへの親子の会話表現 ・やまなしの描写 ・擬声語、擬態語、比喩表現などの宮沢賢治らしい表現の仕方 	<p>○登場するものに限定して描写されている箇所を見つけ、教科書に線を引いていくようにする。</p> <p>○擬態語・擬声語・比喩表現にも着目できるように例を示す。</p> <p>◇様子を表す言葉や比喩表現、擬声語・擬態語などから、場面の様子を想像することができる。</p> <p>【観察・教科書の線引き】</p>	10
デジタル教科書で線を引く場所を例示したので、線を引くポイントが明確になっていた。			25
3 読み取った情景を発表し合い、考えを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子の読み取り ・優れた表現や語感、言葉の使い方 	○位置関係や登場するものの様子がわかるようにワークシートに記入させる。	

<ul style="list-style-type: none"> ・グループ ・全体 	<p>これは、水の底ではなくて、水面のほうだと思うよ。</p> <p>付箋を活用することで、話し合い、移動させながら登場するものの位置関係を明確にしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○付箋を活用し、位置関係が自由に変更できるようにする。 ○全体での発表は、それぞれの月で一つの班を取り上げ、それに付け足していくようにする。 	5
	<p>登場するものをさらに詳しくしている表現は・・・</p> <p>僕たちの班では、水の底にかにの父さんも登場しました。</p>		2
<p>4 登場するものや2枚の幻灯の様子で推薦したいことを書く。</p> <p>5 本時の振り返りをし、次時の活動について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「五月」と「十二月」の情景の違い ・印象的な文章 ・作者の生き方・考え方と重なる叙述 ・本時の振り返り ・次時の学習内容 	<ul style="list-style-type: none"> ○対比している事柄に注目させ、受ける印象の違いを考えさせるようにする。 ○推薦することを意識して理由を書くようにする。 ○次時は「水の中の様子」に着目して読み取っていくことを伝える。 	

(3) 板書計画

<ul style="list-style-type: none"> ・推薦の理由 ・印象的な場面 	<p>わたしのおすすめ</p>	<p>十二月の幻灯</p>	<p>五月の幻灯</p>	<p>「五月」と「十二月」の場面の様子について、登場するもの（かへの親子、クラムボン、かわせみ、やまなしなど）に着目して読み取るう。</p>	<p>やまなし 宮沢賢治</p>
---	-----------------	---------------	--------------	--	----------------------

8 実践のまとめ

(1) 児童の推薦したい文とその理由

- 「あれはやまなしだ。流れて・・・」という文から、賢治が妹との楽しい思い出をかにに置き換えて書いたのだと思う。
- 「クラムボンがかぶかぶ笑ったよ。」という文には、宮沢賢治の独特な表現や言葉をつくるという特徴がよく表れている。
- 「いい、いい。大丈夫だ。心配するな。」という文から、家族を励ます温かさが感じられる。怖さを温かさに変えようとする賢治の思いが伝わってくる。

(2) 授業について

- 単元の初めに宮沢賢治の生涯をわかった上で作品を読むほうがよいと思い計画した。
- 本時では、「登場するもの」に焦点を当ててお気に入りの理由を書くというゴールを設定した。ただ、登場するものを「かにの親子」「かわせみ」「やまなし」に限定して読み取らせた方がよかった。
- 付箋を活用することで、グループでの話し合いのときに、操作しながら位置関係を把握できるようにした。
- 図書館司書の先生に宮沢賢治の作品を集めてもらい、ブックリストを作成することで、読んだ本を把握できるようにした。



9 成果と課題

視点 2	児童一人ひとりが思いや考えをもつための指導方法の工夫
手立て⑤	意欲を高める魅力的なゴールと学習計画の設定
手立て⑥	モデル学習の効果的な活用

- 児童とともに学習計画を立てたので、単元全体の見通しをもち、学習の流れを確認しながら学習を進めることができた。
- 学習のゴールのモデル（竜のはなし推薦カード）を提示したので、推薦文を書く際に児童がモデルを意識して学習することができた。

⑤	⑥	<p>児童一人ひとりが思いや考えをもつための指導方法の工夫</p> <p>意欲を高める魅力的なゴールと学習計画の設定</p> <p>モデル学習の効果的な活用</p>
---	---	--

視点 3	伝え合う力を付けるための指導方法の工夫
手立て⑨	目的意識、相手意識をもち、考えを伝え合う活動や機会の充実
手立て⑩	表現のための指導過程の工夫
手立て⑪	言語環境の整備（話し合いや書く活動の手引きの工夫）

- グループでの伝え合いや意見の交流をもとに全体でも伝え合い、お互いの考え方や感じ方の相違に気づき、その面白さを味わう。

- 話し合いの際に付箋を活用したので、水の中の様子を具体的にイメージすることができていた。
- 「登場するもの」については、話し合いの際に焦点化しておく必要がある。話の内容が多方面にわたってしまうと、ねらいがぼんやりとしてしまう。



10 指導講評

- 単元構想について、目標（つけさせたい力）と児童の実態の差を埋めていくことを考えながら構成を考える必要がある。
- 単元構成を考えていく際には、前後の学年との系統性を大切にしていく。
- モデル文の作成については、学力状況調査の文も参考になる。
- 男女関係のよさ、グループ活動の内容、進め方もよかった。
- 5つの学習内容を身に付けさせるためには、単元を貫く活動を黒板に貼る必要がある。また、手元に「子どもが考える賢治像」を手元に置いておくことより生き方と関連付けやすくなる。
- 最後に活動で終わるのではなく、改めて「賢治はどのような人物だったのだろう」と振り返る時間を設定してほしい。